

〔科目名〕 哲学Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目(第1群)	
〔担当者〕 大森 史博 Ohmori Fumihiro			〔オフィス・アワー〕 時間:講義開始時に指示する 場所:613 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 現代哲学の主要なトピックをとりあげ、そこでとり沙汰される諸事象について、それらがどのような意味で哲学の問題として問われているのかを吟味し、考察をすすめる。こうした「事象」と「問い」の吟味と考察とおして、われわれの世界経験についての理解を掘り下げてゆきたい。国内外の哲学者の著作のなかからテキストを抜粋して読解をおこない、「思考」、「世界」、「自己」、「身体」、「他者」、「贈与」、「生死」といった諸概念を、日常の具体的な経験に即して捉えなおすことへと向かう。哲学とは「問い」の提起であり、「問い」を提起することは、哲学の歴史を担う運動である。ただ概念を受容することにとどまらず、その意味を再考し、表現にもたらし、また、あらたな「問い」を提起するという本来の哲学の営為に参加することへと向かいたい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 春学期の「哲学Ⅰ」は西洋哲学の歴史を軸としたベーシックな講義である。それに対し、この秋学期の「哲学Ⅱ」は現代哲学のトピックともなる諸問題の考察を軸として展開する。哲学は「知を愛する」ということ、つまり事象についてのあくなき探求を意味する。探究という、そのこと自体は、もちろんどのような分野にも共通する学究の根本的な態度にはかならない。それぞれの学問の根本には問いがある。その意味では、哲学の営みは、いかにも素朴な知の探求のようにもみえる。大切なことは、自分自身の問いをもち、事象の核心に向かい、根本に遡って探求をすすめることであろう。そうした機会は、じつは日常生活のなかには、とても少ない。だが、それこそが学問の本来であるだろう。 哲学に固有の「問い」とは何だろうか。そう思われるかもしれない。ここで、先ずもって気づかなければならないことは、学問領域の区分や棲み分けなどが問題ではないということだ。むしろ、これまで十分に考えずにきてしまったこと、これまで問わぬままに過ごしてきた事柄に探求の目を向けること、それこそが肝要な点であろう。この授業が企図するところは、そのように自らのうちに生起する「問い」を掘り起こすことである。受講者もまた、既存の学説や概念を習い覚えるだけでなく、自ら考えることを楽しみ、自分の「問い」を見出すことを試みて欲しい。							
〔科目の到達目標〕 取りあげられている哲学の「概念」、核心にある「問い」の意味を理解し、関連する文献を読み解き、解釈することができる。学び覚えた思想や概念をふまえ、「問い」を吟味し、仕上げ、提起することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 日頃の学びの過程で、あるいは授業の予習復習として各々がじっくり考える時間を確保して下さい。素朴にみえる哲学の問いも、掘り下げて考察をすすめれば、難解さや複雑さは当然ともなうことになります。そうした考察を、哲学を学ぶ面白さに変えていくことができるよう努力を重ねていきます。要望に応じて、履修者数の制限を撤廃しました。大教室で対話形式の授業をおこなうことは難しいとしても、ワーキングシートの内容は、できるだけ共有できるように工夫していきます。持込無しの試験をおこないます。遅刻や出欠について厳しく確認します。							
〔教科書〕 使用しない。プリントを配布する。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 『わからなさを生きる哲学』、岡山啓二、亜紀書房、2022 年 『贈与の系譜学』、湯浅博雄著、講談社、2020 年							

『発見術としての学問』、塩川徹也、岩波書店、2010 年 その他、授業のなかで紹介する。	
〔前提科目〕 前提科目はない。春学期に開講の「哲学 I」と秋学期に開講の「哲学 II」は、各々が独立に完結する授業であり、どちらを先に履修してもよいし、どちらか一方だけを履修してもよい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 全体のおよそ五割以上の出席を評価および単位取得の前提とする。 ワーキングシートの論述内容、授業内の活動や発言 (50%)、期末の筆記試験 (50%) 期末試験やワーキングシートの内容の評価に関しては、とりあげる思想や概念の正確な理解、問題設定の受けとめ、考察の掘り下げ、という三つの観点を基本として測る。 期末試験の実施方法は、筆記試験 (記述式、持込不可) とする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 哲学には独特の難しさがあると思われるかもしれない。しかし、言葉や事柄そのものの難しさを、ひとつひとつ解きほぐしながら考える作業こそが哲学の営みであり、この考える作業を味わうことこそが、哲学への最良のアプローチの仕方だろう。自ら考え、自ら問いをもつことを本来として、焦らず、ねばり強く、授業に参加して欲しい。 授業各回のスケジュールや扱う内容は、参加者の関心や進行状況に応じて変更することがある。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 哲学はどのような学問か 内 容: オリエンテーション、授業の趣旨と進め方、学習の課題と評価についての説明 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 「考えること」を考える 内 容: 「問うこと」と「考えること」、ワーキングシートの使い方 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 贈与論の哲学① 内 容: 贈与がなぜ哲学の問題になるのか 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 贈与論の哲学② 内 容: 贈与と交換 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 贈与論の哲学③ 内 容: お菓子と悪戯 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 贈与論の哲学④ 内 容: 生命と循環の思考、ワーキングシート仕上げ

	教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 自己知についての哲学① 内 容: 私がなぜ哲学の問題になるのか 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 自己知についての哲学② 内 容: 沈黙と表現、独我論と世界概念 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 身体についての哲学① 内 容: 身体がなぜ哲学の問題になるのか 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 身体についての哲学② 内 容: 身体と衣服とファッション、ワーキングシート仕上げ 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 生と時間についての哲学① 内 容: 生きられる時間 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 生と時間についての哲学② 内 容: 生きることと気晴らし 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 生と時間についての哲学③ 内 容: 老いについて 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 生と時間についての哲学④ 内 容: メメントモリ、ワーキングシート仕上げ 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 総括 内 容: 補足とまとめ、哲学とは何か 教科書・指定図書
試 験	期末試験の実施方法は、筆記試験(記述式、持込不可)とする。